

# 榎野川水系におけるトリハロメタン 生成能負荷量の算定

阿部吉明・今富幸也・山本征治・前田達男

全国公害研究会誌, Vo25. No1, 23~30(2000)

河川における負荷量を正確に把握するためには、流域の汚濁発生源、河川の流量と水質及び降雨量等の詳細なデータが必要であり、特に山林等の自然由来の割合が高いトリハロメタン生成能(THMF P)の場合には重要である。

本報は今までに得られた原単位を使用して、榎野川水系のTHMF P負荷量等を算定した結果、当水系の自然浄化率はかなり高いこと、中流域での発生源別割合は、

土地系87%(そのうち、水田12%)の割合が高く、特に代かき期での水田寄与率は約30%と非常に高いことが分かった。

また、人為的なTHMF P負荷量原単位は、0.070g/人・日~0.10g/人・日で、合田らが求めた0.11~0.20g/人・日とほぼ一致しており、算定に使用した原単位はほぼ妥当であると考えられた。